



柳井市立柳井小学校 学校だより

# はつらつ柳井っ子

令和7年4月9日

全校児童数496人



★「子どもが輝く学校」をめざしていきます。



## 言葉の力を大切に

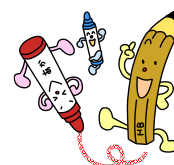
校長 藤村 信之

4月8日(火)に、2年生から6年生の進級を祝う始業式を行い、久しぶりに子どもたちの明るい声が校舎いっばいに響き渡りました。そして、本日4月9日(水)、入学式で新たに元気な1年生72名を迎え、全校児童496名で令和7年度が希望とともにスタートしました。



始業式では、2年生から6年生までの子どもたちに、進級した喜びとともに、こんな子どもになってほしいという姿を伝えました。

知恵いっばい	まなび合う子
笑顔いっばい	やさしい子
元気いっばい	やりぬく子



また、1年生には入学式で、「しっかり勉強する子ども」「友だちに優しくする子ども」「元気にがんばる子ども」になってほしいという話をし、一緒にみんなが輝く学校にしていこうと伝えました。

これは、本校に代々受け継がれている「めざす子どもの姿」で、このような姿がたくさん見られることで、本校の学校教育目標である「子どもが輝く学校」に近づいていくということを、全教職員とも新年度をスタートするに当たって確認しました。

さらに、この学校教育目標には、次のような言葉が続きます。

柳井小児童の誇りを胸に、高い志と夢を持ち、社会の変化に柔軟に対応し、地域とともに生き生きと学ぶ“はつらつ柳井っ子”の育成
--------------------------------------------------------------

この中で、特に「柳井小児童の誇りを胸に」というところをどのように育てていくのかと考えたときに、めざす子どもの姿が体現され、そのことを子どもたちが自覚することが大切だという話を職員会議でしました。そして、そこには我々大人の手立てが必要となり、自己肯定感や他者肯定感を高めていくことが土台として重要になってくるということを伝えました。

すると、早速、本校教員が自己肯定感や他者肯定感に関わるミニ研修を設定してくれて、「リフレーミング」の考え方を教職員で共有しました。

リフレーミングとは、「物事の視点・枠組み(Frame)」を「組み直す(Re-Frame)」という意味の心理学用語で、考え方や視点を変えることで、問題や悩みをポジティブなものに変換したり、新たな解決策を見つけたりする方法です。

例えば、「わがまま→自己主張ができる」「あきっぽい→好奇心旺盛」「口下手→言葉を慎重に選べる」など、短所と思われるようなことも考え方や視点を変えることで、明るい気持ちになり、自信につながって来るように感じます。また、マイナスなイメージをプラスに変えることができ、人との関わりも少し楽になってくるのではと思います。

改めて言葉の力、言葉の大切さを実感させられました。

引き続き、保護者の皆様、地域の皆様と一緒に地域の宝である子どもたちの健やかな成長を支えていきたいと思っております。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いたします。